

CONTENTS

企画展 植物に魅せられた二人	2
友の会のページ	3
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6・7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 9

February, 2013

津山藩最後の藩医となった芳村杏齋の父の墓です。杏齋は、現在の真庭市上福田に医師・芳村泰治の長男として生まれました。後に長崎や大坂へ遊学してポンペやボードウィンに学び、明治2年に津山藩医として登用されたのです。

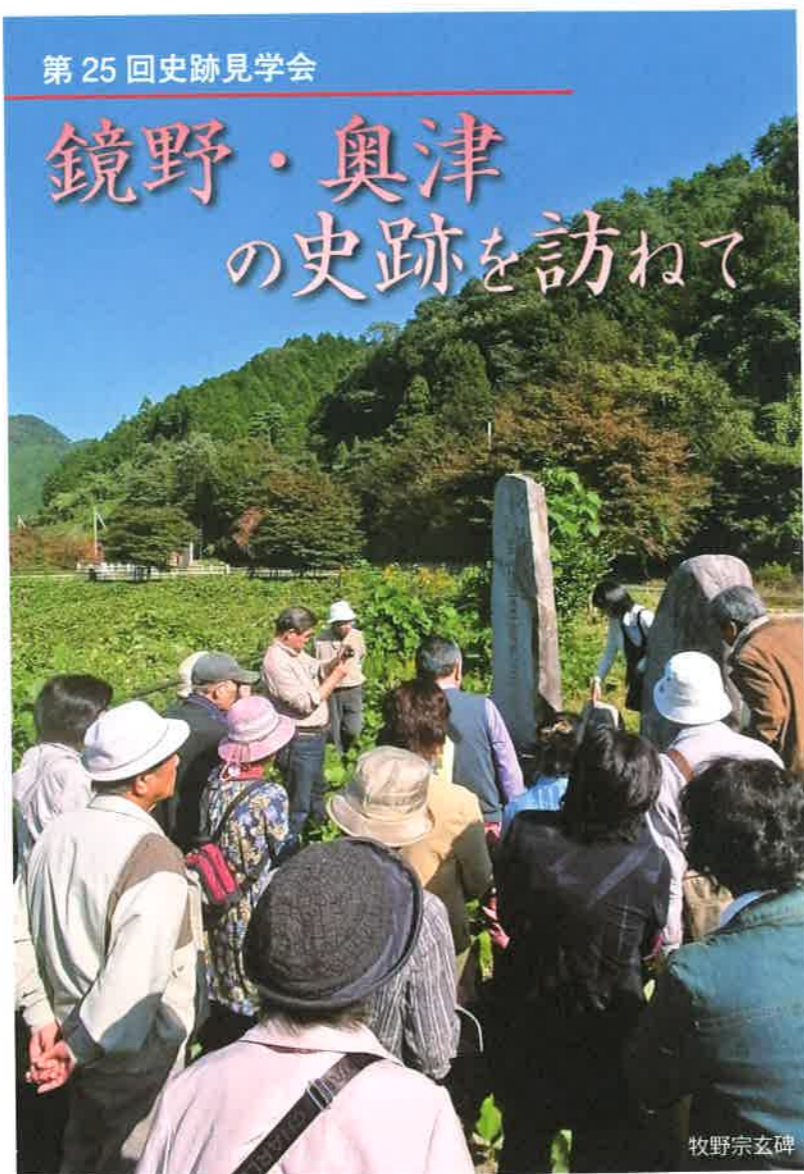
上福田にある芳村家の墓所を訪ねると、父・泰治の墓が積雪寒風の中、人知れず凍として建っています。在村医として地域医療に奔走した様子が、戒名の「博愛道悟」というところから読み取れるのです。(真庭市上福田)



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



日本をこよなく愛し、洋学者たちと交流しながら植物を採集して、それをヨーロッパへ持ち帰ったシーボルト。そして、植物の研究に没頭して「日本の植物学の父」とも称される牧野富太郎。植物に魅せられたこの二人によって、日本の植物学研究は大きく進歩しました。本展では、首都大学東京付置機関 牧野標本館に保存されている二人の植物標本を、同館客員研究教授でもある獨協大学名誉教授・加藤億重先生にご協力いただき展示しました。
シーボルトは1823（文政6）年6月に来日。1826年4月に



第25回史跡見学会
鏡野・奥津の史跡を訪ねて

秋晴れに恵まれた10月21日（日）、25回目となる史跡見学会を実施しました。今回は、鏡野町に残る、江戸後期から明治時代に活躍した医師たちの史跡を巡りました。最初に訪ねたのは奥津湖畔に建つ牧野宗玄の碑です。宗玄は医業のかたわら私塾を開いており、この碑も教えを受けた子弟が建立したものと考えられます。
次に羽出西谷にある水田敬道の墓所にお参りしました。敬道は紀州の華岡流医塾で学んで帰郷しましたが、27歳で亡くなりま

した。戒名の「医王院」がその医業を偲ばせています。
続いて奥津で活躍した医家・石田家の史跡を2箇所訪ねました。石田家は秀賢が医業を開き、その子ども長藤、良碩、右門も医師となつて羽出や長藤、細田で活動しています。良碩の長男・春溪も医業を継ぎ、右門の長男・達斎はのちに京都へ出て静寛院宮（和宮）の侍医などを務めました。
細田の石田家には良碩・右門・春溪の業績を顕彰する慕賢碑が建てられています。

オランダ商館長（カピタン）の江戸参府に随行しています。道中を利用して日本の自然を研究し、江戸到着後は洋学者たちと交友を深めました。特に津山藩医・宇田川榕菴とは、贈呈された植物標本のお礼に、植物学書や顕微鏡を渡すなどして、その後の榕菴の研究に、大きな影響を与えています。
一方、牧野富太郎は、1862（文久2）年、土佐国佐川村（今の高知県高岡郡佐川町）の裕福な商家に生まれ、幼少のころから植物に興味を持っていました。19歳で上京後、東京大学植物学研究室に出入りして、植物学を独学します。その努力が報われ、ヤマトグサの発見・命名や、ムジナモの日本における新発見など、たくさんの業績を残しました。また、富太郎は榕菴が著わした『植学啓原』を高く評価していました。その文章が流麗で、歴史的価値が高いことから、『植学啓原』を「書架の間に備ふべきであると思ふ」とも述べています。
一見無関係とも思えるこの二人は、「宇田川榕菴」を介して津山と繋がっていたのです。
本展では途中入れ替えを含めて、約50点の植物標本を展示。会期中は洋学に関心のある人だけでなく、植物愛好家や植物学の専門家など、多くの方々に見学していただきました。
最後になりましたが、本展開催に当たりご協力いただきました牧野標本館、練馬区立牧野記念庭園記念館、高知県立牧野植物園、長崎市立シーボルト記念館の皆様には改めてお礼申し上げます。



▲オキナグサ
長崎・出島の対岸にある稲佐山で採取され、シーボルト自身が作成した標本（上）。下の写真は高知県立牧野植物園提供。

また長藤の良碩の住居跡には、教えを受けた塾生たちが建立した顕彰碑が、大きな公孫樹の下に佇んでいました。
こうした在村医たちは、現在では歴史の中に埋もれ、忘れ去られている人も少なくありません。今回の見学会では、地域のために生きた医師たちの活躍を実感することができ、充実した見学会となりました。



牧野宗玄碑（久田上原）↓
水田敬道墓所（羽出西谷）↓
石田良碩・右門・春溪の慕賢碑（細田）
↓石田良碩顕彰碑（長藤）

このハサミは華岡流外科を習得し、幕末から大正初期まで英田郡海田村（今の美作市海田）で、地域の医療に尽くした山田純造が外科手術の際に使用したハサミです。純造の先輩で、華岡青洲の高弟として知られている本間玄調の著書『瘍科秘録』にも、これとよく似たハサミの図が載っているところから、門人たちの間で広く使われたものだったのでしょう。さて、写真のように、ハサミの包み紙には「九字鋏」と書かれています。「九字」とは密教や修験道などで、主に護身のための呪文として、病魔を払う時に使われました。そこで、「身体から病巣を切除するた

資料館展示品から

伝えられた華岡流の外科器具



▲展示室 [3] に展示中の「九字鋏」

めのハサミ」という意味を込めて、「九字鋏」と名付けられたとも考えられます。

しかし、ハサミ自体を眺めると、「くの字」に曲がっているのが、そのまま「くじハサミ」になったのか。はたまた、1800年代に手術用の曲がったハサミを開発した、イギリス人医師クーパー（Sir Astley Cooper）に敬意を表して「クーパー」の「ク」を取ったのか。あれこれ考えていると、謎が謎を呼んでしまいます。ひよっとしたら、もっともっと深い意味が隠されているかもしれません。

文：学芸員 乾 康二

江戸時代作州人の生き方と学問

基調講演 講師：東京大学大学院情報学環教授・東京大学史料編纂所教授 山本博文先生
対談 東京大学大学院情報学環教授・東京大学史料編纂所教授 山本博文先生
明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下哲典先生
大学院応用言語学研究科兼任

12月16日(日)、GENPOホールを会場として、昨年に引き続き、「津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム」を開催しました。今回は「江戸時代 作州人の生き方と学問」というテーマのもと、東京大学大学院教授・山本博文先生の基調講演、山本先生と明海大学教授・岩下哲典先生の対談という内容でした。

山本先生は津山市のご出身で、昨年11月には洋学資料館前庭に寄贈・設置された箕作秋坪像の揮毫をされています。そんな資料館と縁の深い先生から、江戸時代における洋学の歴史を、西洋流外科の導入から、幕末の箕作阮甫や津田真道までご講演いただきました。津山では、蘭学が生まれる以前から、藩医の久原甫雲が西洋流外科を学んでいます。後に、津山藩医・宇田川玄随が蘭学を学んだことが契機となり、津山から洋学者が輩出されるようになりました。

また、津田真道を取り上げ、幕末に活躍した津山の洋学者は幕藩制を維持するために新しい学問を学んだこと、大成した洋学者は下級武士の出身が多く、上級武士とは時代に対する危機感が違っていたことなどをわかりやすく解説していただきました。

続いて行われた対談では、日本での医学の流れや、漢方と蘭方の軋轢などについて、両先生の貴重なご意見を聞くことができました。当日は、おだやかな冬晴れのなか140人の方が聴講にいらられ、会場は超満員。皆さん興味深い様子で熱心に聴いておられ、成功裏に終えることができました。

箕作秋坪肖像画、

「維新の洋画家 川村清雄」展へ出展



一昨年、資料館の所蔵する箕作秋坪肖像画の作者が、西洋画の先駆者・川村清雄（1852～1934）であることが判明しました。そして、調査の過程で肖像画の下絵が、江戸東京博物館に所蔵されていることも分かりました。下絵について問い合わせをしたことがきっかけとなって、昨年10月8日（月）から12月2日（日）まで開催された江戸東京博物館の開館20周年記念特別展「維新の洋画家 川村清雄」に、秋坪の肖像画が展示されました。

この特別展は引き続き2月9日（土）から3月27日（水）まで静岡県立美術館でも開催されています。ぜひご観覧ください。





津山東高校、「資料館で「地域理解学習」を実施

津山東高校1年生の皆さんが、資料館で地域理解学習を行いました。9月26日(水)には同校で下山館長が「津山洋学のはなし」と題して講演を行い、10月23日(火)、30日(火)、11月13日(火)に3組に分かれて資料館を訪れました。

来館時には、最初に1時間かけて展示を見学し、その後は館内のガラス拭きや葉草の小径の樹木剪定、伸びすぎた芝の根切りなど、資料館の環境整備のための奉仕作業を実施しました。

オムニバス講演会開催

1月27日(日)、学芸員による研究報告会(オムニバス講演会)を開催しました。これは、昨年度に実施した研究報告会「2枚の肖像画が語りはじめた」に続いて、2回目です。今回は「江戸のマルチ学者 ふしぎ?不思議?な宇田川榕菴さんの世界」をテーマにしました。宇田川榕菴は日本で最初の植物学書と化学書を刊行したことが有名です。しかし、それだけではなく薬や昆虫、オランダの歴史や風俗、玩具などにも興味を持って研究していました。そんな榕菴の魅力を感じてもらうと、今回は「玩器目録」中のシヨコラトの形と使用目的は何か(乾)、エブソン塩? 解明されたオランダ渡りの薬とは(田中)、記録された「和蘭カルタ」のウォーターマーク、「西洋宝貨鑑」にある「シー氏之印」の謎(下山)という4つの話題を取り上げ、日頃の研究成果を報告しました。当日の天気予報は雪でしたが、その中でも110名の方が足を運んでくださいました。

▼オムニバス講演会の様子
終了後には「面白かったですよ」「謎解きにわくわくしました」と声をかけてくださる方も多く、職員一同励みになりました。



▲下山館長

◀乾学芸員

津山鶴山ライオンズクラブより箕作秋坪の銅像寄贈



津山鶴山ライオンズクラブより、認証45周年記念事業の一環として箕作秋坪の銅像が寄贈されました。

10月31日(水)には除幕式が行われ、同クラブ会長の桑山博之さんが「日本の近代化に貢献した秋坪の功績を、未永く伝えたい」と挨拶されました。

続いて秋坪の曾孫にあたる菊池慎一さんも加わって除幕が行われ、秋坪の堂々とした像が姿を現しました。その後、市長の感謝状を、田村教育長から同クラブ会長へ贈呈しました。

秋坪の銅像を制作されたのは、



箕作秋坪 (1825 ~ 1886)
今の真庭市下皆部に生まれ、江戸に出て箕作阮甫の門人となりました。その後、阮甫の養子となります。蕃書調所の教授手伝などを務め、幕末には幕府の使節に随行して2度渡欧し、外交交渉に尽力。明治維新後は東京に私塾・三叉学舎を開いて子弟を教育し、明六社にも参加するなど文明開化に功績を残しました。

これまで津山駅前の箕作阮甫像や資料館前の宇田川玄真、榕菴像、津田真道像などを手掛けた彫刻家の田中彰さんです。秋坪像は、晩年の肖像画をもとにして作成されました。髪と長いひげをたくわえ、洋装をした威厳のある姿をしています。

また、「箕作秋坪先生」の題字は、東京大学大学院教授の山本博文先生(津山市出身)が揮毫されました。

これで資料館の前庭には、宇田川家三代、箕作阮甫、秋坪の「津山洋学五峰」が勢ぞろいしました。冬の陽だまりの中、師弟で語り合っているように見えます。

ご来館の際には、ぜひ足をとめてご覧になってください。

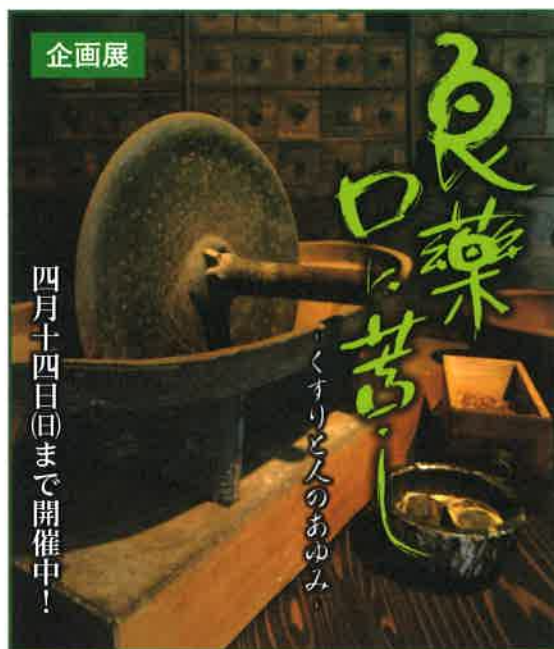
INFORMATION

平成24年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「万病に挑む」 22 第67回文化講演会 講師：国文学研究資料館 樋口雄彦 先生 22 友の会総会 (休館日：2・9・16・23日) 	4/21～ 万病に挑む 在村医たちの足跡を辿って
5月	(休館日：1・2・7・8・14・21・28日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 10 友の会研修バス旅行 14 薬草説明会 (休館日：4・11・18・25日) 	～7/1
7月	<ul style="list-style-type: none"> 3～6 燻蒸作業にともなう臨時休館 企画展「地図で世界を旅しよう!!」 28 ヒンデローベン絵付け体験教室 (休館日：2～6・9・17・18・23・30日) 	7/14～ 地図で世界を旅しよう
8月	<ul style="list-style-type: none"> 2 江戸時代の化学書からの実験 (休館日：6・13・20・27日) 	
9月	(休館日：3・10・18・19・24・25日)	～9/23
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「植物に魅せられた二人 — シーボルトと牧野富太郎の植物標本 —」 友の会史跡見学会 (休館日：1・9・10・15・22・29日) 	10/6～ 植物に魅せられた二人
11月	(休館日：5・6・12・19・26日)	～12/2
12月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「良薬口に苦し」 16 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 「江戸時代作州人の生き方と学問」 山本博文 先生・岩下哲典 先生 (休館日：3・10・17・25～31日) 	12/8～ 良薬口に苦し くすりとい人のあゆみ
1月	<ul style="list-style-type: none"> 27 学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・7・15・16・21・28日) 	
2月	(休館日：4・12・13・18・25日)	
3月	(休館日：4・11・18・21・25日)	～4/14

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



・・・刊行物のお知らせ・・・

■ 洋学研究誌「一滴」第20号を刊行しました。

目次

- 幕府歩兵の創設と展開 — 常野の乱を中心として —
…福田舞子 (1)
 - 井岡列の人物像 …小宮佐知子 (29)
 - 青年期における宇田川榕菴の蘭学受容
— 「理学発微」を中心に — …野村正雄 (39)
 - 平成23年度企画展報告
彩生—オランダ伝統の技と美—
Kinuko ヒンダローベンススタジオ20周年記念展 (53)
 - 資料が秘めた物語 (60)
 - 蛮書和解御用創設200周年記念 企画展
蛮書和解御用と津山藩の洋学者 (69)
 - 幕末維新を駆け抜けた女医 光後玉江 (86)
- 全97頁 800円

ご利用案内

- 開館時間/9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)
- 入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分